

神奈川県看護協会
重度重複障害者等支援看護師養成研修
「呼吸障害の理解とリハビリテーションの実際」レポート

平成 29 年 12 月 16 日(土)10:00~16:00、横浜の神奈川県総合医療会館において当院の理学療法士 6 名により「呼吸障害の理解とリハビリテーションの実際」とのテーマで研修会が開催されました。神奈川県看護協会の方が、平成 27 年に当院の監修・編著で出版された「写真でわかる重症心身障害児(者)のケア」における「重症心身障害児(者)のリハビリテーション」を読み研修会を依頼することに決めたそうです。今回、看護協会からの依頼として初めて行った研修会でした。

当初は受講生 90 名での依頼でしたが、当院スタッフの研修会の強みである実技をしっかりと入れた体感してもらえたいとの希望から、65 名にしばっていただきました。病院だけでなく訪問分野からも幅広く参加があり、ベテランの参加も多く、重症児の呼吸リハビリテーションへのニーズの強さを感じました。

午前中に呼吸のメカニズムや呼吸障害とポジショニングに関する講義を行い、実際にアライメント・胸郭呼吸運動の評価を行って胸郭呼吸運動の実技を行いました。午後はポジショニングの基本について学び、実際に背臥位や側臥位でのポジショニングを行いました。

講習会終了後にいただいたアンケートでの受講生の声を一部紹介させていただきます。

- 良肢位=まっすぐに正すという考えの危険性をメカニズムとポジショニングを学ぶことで改めて理解できた
- 安定した呼吸というキーワードから今まで観察してきた呼吸運動の見方も変わり、どう支援していくことがリハビリテーションになるのか、研修前後で考え方が変わった
- ポジショニングの基本、考え方、実技をとおして改めて重要性を理解できた
- 横隔膜、アライメント(3つポイント)、側臥位、ポジショニングの基本等とても勉強になった
- 実践がありわかりやすかった
- 今まで呼吸補助で強制的に胸腔を広げるようにしていた。手を添える方が自然と呼吸につながり生きるための手助けになるように感じた
- アライメント、大切に姿勢、呼吸運動の支援をしていきたい
- タオル3枚でこんなに呼吸しやすくなるのに気づいた
- 演習アドバイザーがたくさんいたので、質問しやすく良かった
- 実技演習で体験して気づくことが多かった
- 排痰ばかりに目がいていたが、空気を入れるという本来の肺機能に気づいた
- 普段見ていることにほんの少し手を加えるだけでグッと変わることを学んだ
- 改めてポジショニングと呼吸しやすい姿勢を個別に合わせてPTさんに伺いながら実践したい
- 体の動きを脳が認識するというのが印象的だった
- 重心児の体を体感できる貴重な研修だった
- PTの方のタッチングの手が柔らかく感心した
- 胸郭の動きの評価を明日から活用できればと思う

大変好評だったとのことで、来年の研修会もぜひと声を掛けていただきました。